

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内	11
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	11
➤ 会員募集中	12

巻頭書記

本号では、台湾屏東県政府視察団との技術交流、9月に開催された ARRN 運営会議の概要報告に加え、第13回国際河川シンポジウムへの参加を報告します。また、寄稿記事として愛媛県鞍瀬川寄稿記事、JRRN 技術委員を努めていただいております白川委員からの韓

国ワークショップ参加報告、「水辺からのメッセージ No.18」をご紹介します。

今後も、国内外の積極的な情報共有と人材交流を目指して参りますので、引き続き、JRRN 会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

台湾屏東県政府視察団との技術交流境報告(平成22年10月25日開催)

2010年10月25日(月)、台湾の最南端に位置する屏東県政府関係者(20名)が来日、リバーフロント整備センター(JRRN事務局)を訪問し、河川整備全般に関わる技術交流を行いました。

<交流プログラム>

- 台湾屏東県知事より、視察団構成と視察目的の説明。
- JRRN事務局より、リバーフロント整備センター及びARRN/JRRNについて紹介。
- リバーフロント整備センターより、日本における河川整備(特に洪水対策)に関わる施策や事例紹介。
- まちづくりと一体となった河川整備全般の意見交換。

今回は、今年8月に交流を持った台湾視察団の世話役を担っていた台湾実践大学の李宜欣先生からの依頼をきっかけに、相次ぐ大水害に対して安全・安心な街づくりを実現したいという屏東県知事の熱意のもと、実施されるに至りました。

限られた時間の中で、まちづくりと一体となった河川整備の進め方、安全度の考え方、コスト負担など、行政ならではの論点から活

発な意見交換がなされました。難しいテーマですが、このような交流を重ねていき、相互で共通する部分、異なる部分を認識することで、それぞれのできる国際協力の第一歩が見いだされるのだと思います。着実に私たちのネットワークが広がりつつあることが感じられる交流となりました。

なお、本交流行事は直前に決定したため事務局のみの参加となりましたが、今後はJRRN会員公開行事として開催できるよう努めてまいります。

(JRRN事務局 後藤勝洋)



技術交流の様子

JRRN 活動報告(2)

第 5 回 ARRN 運営会議開催報告(2010 年 9 月 15 日・韓国ソウル市)

2010年9月15日（水）、韓国・ソウル市にてアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の「第5回運営会議」を開催しました。

運営会議は、年に1度、各RRNの代表者が参加し、規約に基づいて組織体制や活動計画等を含めたARRN運営に関する議論、決定を行っています。今回の第5回運営会議は、ARRN国際フォーラムに併せてソウルで開催し、意義のある会議となりました。ARRNは国をまたがるネットワークのため、全RRNで顔を合わせることは容易ではなく、当然通常の連絡はもっぱらメールや電話がほとんどです。このような機会は、たとえ年に1回でも貴重であり、共通の認識がスムーズできるだけではなく、コミュニケーションを伴う協議は何倍もの価値を増すように感じます。

会議では、冒頭でARRN会長に玉井信行教授が今後2年間の任期で再任され、またJRRNが引き続きARRN事務局を担うことが決まりました。続いて、昨年度のネットワーク全体での活動を踏まえ、今後1年間のネットワーク全体での活動計画について共有し、フォーラムやワークショップ等のイベント開催、ホームページ

の構築、河川再生手引きの作成、また他ネットワークとの連携等に関し審議と意見交換を行いました。来年度の運営会議は日本で開催し、併せてワークショップの開催を予定しておりますので、JRRN会員のみなさまにもご参加いただける機会をご提供できると思います。



運営会議の様子



参加者全員での集合写真

<参加者>

ARRN 玉井信行（金沢学院大学、ARRN 会長）

KRRN: 韓国河川再生ネットワーク

Bong Hee LEE（Saman Engineering Ltd.、KRRN 事務局長）、JeongSeok YANG（国民大学、KRRN 情報委員）、Suk Hwan JANG（Daejin大学、KRRN 技術委員）

CRRN: 中国河川再生ネットワーク

Dongya SUN（IWHR 中国水利水電科学研究員、CRRN 事務局長）、Jinyong ZHAO（IWHR 中国水利水電科学研究員、CRRN 情報委員代理）、Hongwu TAN（IWHR 中国水利水電科学研究員、CRRN 技術委員代理）

JRRN: 日本河川・流域再生ネットワーク

佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター、JRRN 事務局長）、伊藤一正（株式会社建設技術研究所、JRRN 情報委員）、白川直樹（筑波大学、JRRN 技術委員）

オブザーバー

Chang Wan KIM（Former secretary general of KRRN）、Hong Kyu AHN（KICT 韓国建設技術研究院）

Xingong WANG（Yellow River Water Resources Protection Scientific Institute）

ARRN/JRRN 事務局

木村達司、和田彰、沼田彩友美

◆議事次第等はホームページ参照

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/2367.html>

（JRRN 事務局 沼田彩友美）

JRRN 活動報告(3)

第 13 回国際河川シンポジウム参加報告(2010 年 10 月中旬・豪国パース市)

International Riversymposium (国際河川シンポジウム) がオーストラリア国パースにて 2010 年 10 月 11 日～14 日に開催され、JRRN が事務局を担う ARRN の P R 及び河川再生分野の最新の知見を得ることを目的として参加する機会を得ました。本シンポジウム参加の概要を簡単にご紹介させていただきます。

【 1 】 国際河川シンポジウムとは？

International Riversymposium は、オーストラリア政府系 NGO「International Water Forum」の年次行事として 1998 年から始まり、本年度で 13 年目となります。

河川管理に関わる豪国内及び世界の成功事例を、河川再生の担い手である行政機関・公益組織・研究者・技術者・地域コミュニティ・事業者等で共有し、河川及び流域の生態的・社会的価値をより高めることを目標とする行事です。また、本シンポジウムでは、毎年「河川賞(Riverprize)」として優れた河川再生活動が国内外 1 事例ずつ表彰され、河川分野で名誉に当たる賞の一つとして世界的に認められています。

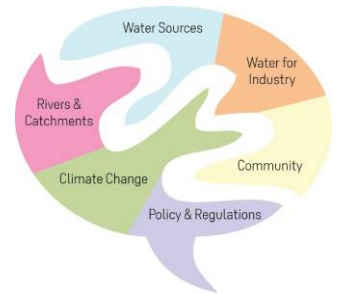
【 2 】 開会式の様子



左右のスクリーンにオーストラリアの河川を取り巻く諸問題を象徴する写真がスライドショーで表示される中、アボリジニのショーから始まり、続いてアボリジニの代表の方による最近の深刻な河川の状況や歴史的な川との関わりといった川への思いが語られ、その後、会議主催者である Chairperson からの開会挨拶という非常に凝った演出でした。

【 3 】 個別セッションでの討議

各セッションでは、表流水・地下水・仮想水・再生水・環境流量など水利用面の視点、地域参画といった活動主体セクターからの視点、また気候変動などリスク管理の視点など、様々な切り口で河川再生に向けた豪国内及び諸外国での取り組みが扱われました。



詳細プログラムは本行事ホームページでご覧いただくことができます。(言語：英語)

<http://www.riversymposium.com/>

【 4 】 本年の Riverprize 受賞河川

海外の優れた河川再生の取り組みを表彰する International Riverprize (賞金約 2,800 万円) は 1999 年より、またオーストラリア国内の優れた河川再生事例を表彰する National Riverprize (賞金約 1,600 万円) は 2001 年より始まり、本年度は次の河川が受賞しました。

◆海外：イギリス・テムズ河の再生

◆豪国内：Derwent 河口域の再生

なお、本行事参加の詳細は、以下の参加報告書で紹介しておりますので、ご覧頂ければ幸いです。



■ 第 13 回国際河川シンポジウム参加報告 (PDF3.9MB)

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2415.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

会員寄稿記事(1)

愛媛県 鞍瀬川・過去からの贈り物 里山再生

寄稿者：藤原 美紀（鞍瀬塾事務局・JRRN 会員）

(1) 東予地区研修会のあらまし

「周桑いのちの樹」の専門部会の東予環境グループと鞍瀬塾が主催している多自然川づくり研修会東予地区研修会を、7月13日と9月28日に、西条市立丹原文化会館を会場に開催しました。参加者は、行政関係者、NPO、地域住民、施工業者等で1回目は22名、2回目は19名の方々に参加いただきました。（多自然川づくり研修会の主旨については前回の寄稿をご覧ください。）

(2) 2級河川「鞍瀬川」と県道「落合久万線」

西条市丹原町の堂が森を源に、周桑平野をうるおし、燧灘へと注ぐ、2級河川「中山川」の支流です。明治時代から鞍瀬川沿いには、明賀鉦山・峰鉦山があり、硫化鉄鉦として採掘がおこなわれてきました。明河地区には精錬所が設置されていたため、県内でも最初に電気がひかれ、鞍瀬川の中流には、現在も水力発電所の跡が残り当時の面影がしのべれます。鞍瀬川沿いの県道落合久万線は、第2次世界大戦後、住友財閥から愛媛県に他の東予地域の県道とともに寄付されたものです。



実地研修箇所

(3) 研修会について

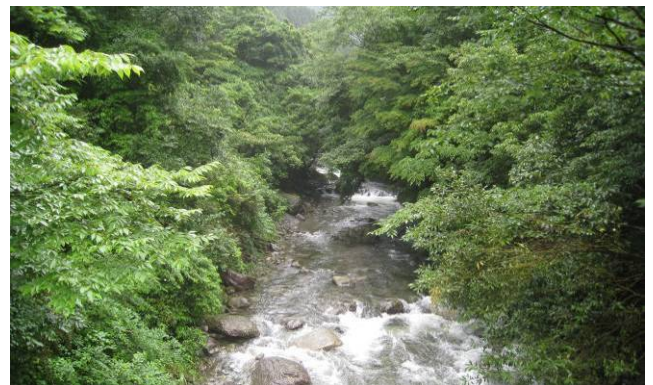
1) 第1回研修会(7月13日開催)

午前中の講義では、吉村伸一氏（(株)吉村伸一流域計画室）を講師に、これまで行われてきた「多自然型川づくり」の課題と、今後進めていく「多自然川づくり」の要点について、事例を用いてご説明いただきました。



講義の様子

午後からの実地研修では、鞍瀬川の上流部を見学しました。この鞍瀬川は、県道の拡張工事があまり実施されておらず、川が他の県道沿線の河川に比べ、原始的で良好な自然環境が保全されています。上流の保井野地区では、オオサンショウウオが過去に保護された記録があり、何時間もかけて川をさかのぼらなければならないところにいるような水生昆虫とも、県道のすぐ脇の水辺で出会うことができます。



①鞍瀬川上流域の状況

保井野地区より下流に位置する明河キャンプ場は、旧明河小学校の跡地を活用した場所で、平成5年には、当時の愛媛県西条地方局丹原土木事務所が、親水護岸として整備を行った場所でもあります。



②明河キャンプ場周辺の鞍瀬川の状況
(写真右側ののり面が親水護岸)

2) 第2回研修会(9月28日開催)

午前中の講義では、(財)リバーフロント整備センターの主席研究員内藤正彦氏をアドバイザーに、8月9日に改正された「中小河川に関する河道計画の技術基準について」を中心に、「多自然川づくりポイントブックⅡ」の内容についてご説明いただきました。

午後に開催した実地研修では、愛媛県がおこなっている愛・リバー活動の一環として、5月から回収されな



不法投棄ゴミ回収の様子

その後、今年度より愛媛県東予地方局森林林業課が対策を行う「落合」の地滑りについて、平成18年度か

らの建設部道路課の調査結果や現在の調査状況についてご説明いただきました。この、落合の地すべりでは、巨石を組み合わせ大石を楔として地滑りのポイントに打ち込み、地すべりの動きを今現在も抑え込んでいるとおもわれます。参加者からは、実際に現地に来て説明を聞くとよくわかりますと言われていました。

最後に、2004年7月3日に開催した第1回鞍瀬川公開コンペにて選ばれた計画案を現地にて私たち鞍瀬塾から説明し、内藤主席研究員よりご意見、ご指導をいただきました。

多自然川づくり研修会では、今後第2段階(平成25年度から31年度)の研修として、多自然川づくりを進める上での、実際の事業の進め方について、この計画案をもとに、立案・事業申請・実施設計・事業実施・維持管理・事業評価と計画の修正について学ぶ予定です。



③鞍瀬川自然再生事業研修予定箇所
(上：上流側、下：下流側)

(4) 現地見学を終えて

今回の現地研修では、二つの問題が見えてきました。ひとつは、地域住民への説明の問題です。私たち鞍瀬塾の参加者は、国土交通省の出前講座を受講し、ある程度の知識を学んでいます。それでも、専門的なことはわかりません。知識がなければ誰でも不安になり、誤った情報を信じて暴走してしまいがちです。行政機関の方々にとって公共事業を進めていくうえで、住民からのクレーム処理は、重要なカギとなっていますが、最初から住民を交えて、説明をしていけば防げることがほとんどだと思われます。ただ、大切なのは、何も知らないことが前提での説明をどうするのかという点です。

もうひとつは、不法投棄ゴミの問題です。ゴミの不法投棄が問題なのはもちろんのことですが、不法投棄ゴミの回収に対して行政機関もきめられた規則のあるなかで、極力柔軟かつ素早い対応をいただけることに、期待しています。

本稿の最後に参加者から寄せられた感想を、以下に紹介させていただきます。

「川づくり技術基準に基づいて景観や調和などを考慮して、河岸や護岸の調査に始まり、計画、設計、施工、維持管理と引き継がれていくもので、全て計画通りにいかず失敗した例などもあり、完成後も監視していく必要があることを初めて知りました。」

洪水など自然の持つ独自の力による川の環境形成が望ましいと知りつつも、多少なりとも私たち人間の手で、川の環境を助ける「維持管理」が必要であることは、川とともに生きている私たち社会全体の責任だと考えています。

行政機関の河川管理者の人たちだけでなく、私たち地域住民が川を見守り、手助けすることがこれからの川づくりには必要なはずで、私たちの活動は、愛媛県のア・リバー活動の一端を担い、この鞍瀬川の良好な自然環境を守る力の一つとなるように、地域住民の皆様と協力しながら、続けていきます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

JRRN では、会員皆様からの河川再生に関わる様々な話題のご寄稿をお待ちしております。

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 会員で共有できる情報がありましたらいつでも JRRN 事務局までご連絡ください。団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局：info@a-rr.net)

【2010 年（1 月号～10 月号）にご寄稿頂いた記事タイトル一覧】

- ・水辺からのメッセージ (No.8～17)
- ・愛媛県 重信川の「泉」と「霞堤」の再生
- ・霧島天降川（鹿児島）のエコツアーに参加して
- ・台湾経済部水利署水利規劃試験所の方々と台湾の河川を見てきました
- ・愛媛県小田川と麓川の多自然川づくり
- ・現代のエジプトはアスワンハイダムの賜物？
- ・中国東北地方の河川風景
- ・韓国四大河川再生プロジェクトと漢江の利用状況を見聞してきました
- ・柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る ～第 6 回柿田川シンポジウムより
- ・第 3 回中国都市河川総合整備セミナー～日本の多自然川づくりを紹介

※ご寄稿頂きました皆様、どうもありがとうございました。

会員寄稿記事(2)

国際シンポジウム『北東アジアの河川管理と気候変動』参加報告

寄稿者：白川 直樹（筑波大学・JRRN 技術委員）

2010 年 10 月 15 日にソウルで開催された国際シンポジウム「Mainstreaming Climate Change in River Management in Northeast Asian Countries」に出席してきました。このシンポジウムは韓国のハンシン大学地域開発センターと市民団体 CMEJ（Citizen's Movement for Environmental Justice）が主催し、ソウル女性プラザを会場に行われたものです。

蔡洙一ハンシン大学学長、金成勲 CMEJ 理事長の開会あいさつの後、カリフォルニア州水資源局の Francis Chung 氏が気候変動に対応するカリフォルニア州の水資源管理や環境正義の概念について基調講演を行いました。環境正義（Environmental Justice）には US EPA やカリフォルニア州の定義があり、コミュニティを知ること、利害関係者をきちんと取り込むこと、影響の偏り、利益と負担、の 4 つに気を配らなければならない、ということでした。

午後の部は 2 つのセッションにて 5 人の講演とパネルディスカッションが行われました。最初のセッションでは（財）リバーフロント整備センターの丸岡昇専務理事が日本の河川管理における気候変動の対応について豊富な事例を紹介され、ハンシン大学の Lee SangHun 氏が人文科学の研究者の立場から韓国四大河川プロジェクトの疑問点や問題点を指摘しました。次のセッションでは台湾 Entek Solutions の曾聡智氏が低炭素コミュニティとその事例を紹介し、白川が JRRN および ARRN の紹介、チュンアン大学の金鎮洪教授が韓国を中心とするネットワーク作りと市民による河川環境モニタリング手法を紹介しました。どちらのセッションも講演に引き続いて講演者に韓国のパネラーを加えたパネルディスカッションへと移行しました。

主催者の一つである CMEJ は政策提言を目的とする大きな市民団体で、子供と食、土地の権利、気候変動、そして川といった異なる分野にまたがって活動をして



会場となったソウル女性プラザ



講演と質疑応答の様子

いるとのこと。NGO と政府の関係には悩みが多く、日本において政府と市民の間の情報共有はどうしてうまくいっているのか、といった声も挙がっていました。日本の事例ではハザードマップに興味を示されたり（特にその公開方法）、韓国と日本それぞれの在来種が相手方で外来種として問題視されている話題があがったり、民主党政権になって河川管理はどう変化したか（するか?）といった質問が出たりしました。シンポジウム全体として、北東アジア各国で気候変動への対応や市民参加に関するビジョンや目的が共有できないか、という問題提起もなされ、ARRN やその国内組織（韓国では KRRN）に対する期待も感じられました。

〔プログラム〕

10:30-10:50 開会あいさつ

蔡洙一（ハンシン大学学長）

金成勲（CMEJ 理事長）

10:50-12:00 基調講演 Francis CHUNG（カリフォルニア州水資源局）

“Water Resources Planning and Management with the Changing Climate”

13:00-15:00 セッション1

River Management Policy and Restoration Cases Relating to Climate Change in Northeast Asian Countries

司会：金丁勛（ソウル大学）

● *“Basic Strategy and Specific Measures for Mitigating Climate Change and Adapting to it in River Management in Japan”*

丸岡昇（（財）リバーフロント整備センター）

● *“River Management Policies for Adaptation to Climate Change and Civil Engineering Project for Four Major Rivers of Korea”*

LEE Sang-Hun（ハンシン大学）

パネルディスカッション

PARK Sung-Je（未来資源研究院）

PARK Jin-Seop（Eco-Horizon Institute）

HUH Jae-Young（大田大学）

白川直樹（筑波大学）

曾聡智（Entek Solutions Inc.）

丸岡昇

LEE Sang-Hun

15:20-17:30 セッション2

River Management Governance and Cooperation for Climate Change Adaptation in Northeast Asian Countries

司会：李恩姫（ソウル女子大学）

● *“Enhancing the River Management Governance through Low Carbon Community Building (A Taiwanese Case)”*

曾聡智

● *“Desirable River Management Governance and Citizen Participation for Climate Change Adaptation in Japan”*

白川直樹

● *“Establishment of River Management Network and Cooperation in Northeast Asian Countries”*

金鎮洪（中央大学）

パネルディスカッション

PARK Yong-Shin（CMEJ）

LEE Jun-Kyung（Korea Network for River and Watershed）

CHOI Dong-Jin（Korea Research Institute for Environment & Development）

丸岡昇

水辺からのメッセージ No.18

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

小樽運河をふるさとの景色に

変わらぬ景色の安心感：運河も道路も街並みも変わったのに倉庫群は昔の姿残す



撮影：2009年10月（北海道小樽市）

◆運河あつての観光地小樽

1960年代の運河埋め立てに対する保存運動が、全国規模で高まり、1983年に入って元々の運河の半分は埋め立てを開始、1986年には小樽臨港線が開通し、現在の姿となりました。今や一大観光スポットに成長したとはいえ、市の人口は1964年のピーク20.7万人から激減し、2009年には13.5万人になりました。

◆自立する都市をめざして

外国人観光客が増えるのも時代の流れですが、市民自らがわが街小樽の歴史と文化を大切に、運河周辺のみならず、さらに小樽全体へと目を向ける視点が求められます。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2010 年 10 月提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■第 7 回柿田川シンポジウム『水の動きと生態系から柿田川を考える』

JRRN 会員より、柿田川生態系研究会主催の「第 7 回柿田川シンポジウム『水の動きと生態系から柿田川を考える』(10 月 23 日・三島市民生涯学習センター) に関する情報を御提供頂きました。

※本行事は終了しました

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2397.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 150 回】

◆テーマ: 「古代と現代の治水: 現代治水事業の原点をさぐる」

◆講師: 小山田 宏一氏 (大阪府立狭山池博物館)

◆日時: 平成 22 年 11 月 25 日 (木) 18:30~20:30

◆場所: 大阪府立男女共同参画・青少年センター

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2379.html>

【第 151 回】

◆テーマ: 「北欧の自然と文化: 釣りキチ外交官の見た川と魚と人生模様」

◆講師: 大塚 清一郎氏 (エッセイスト)

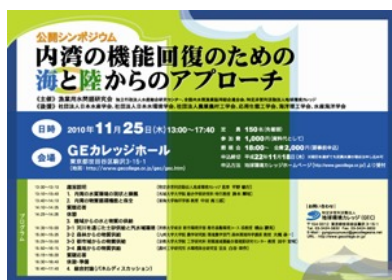
◆日時: 平成 22 年 12 月 13 日 (月) 18:00~20:00

◆場所: シェーンパッハ・サボー 3F「穂 高」

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2369.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■内湾の機能回復のための海と陸からのアプローチ



JRRN 団体会員である「特定非営利活動法人地球環境カレッジ」主催のシンポジウム「内湾の機能回復のための海と陸からのアプローチ」(11 月 25 日・東京都世田谷区駒沢) をご紹介頂きました。

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2391.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■多自然川づくり研修会 第 2 回 (南予地区)



JRRN 会員である「鞍瀬塾」様より、愛媛県内で 11 月 2 日に開催される「多自然川づくり研修会 第 2 回開催 (南予地区)」のご案内を頂きました。

※本行事は終了しました

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2376.html>

【海外からの情報提供】

■ECRR ニュースレターの最新号発刊 (2010 年 7-9 月号)

ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) 最新ニュースレターを ECRR 事務局より送付頂きました。

本号では、9 月に韓国で開催されました「第 7 回 ARR 国際フォーラム」への ECRR 会長参加の記事が写真とともに紹介されています。(英語版)

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2395.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■第 1 回有明海再生講演会「森里海連環に基づく有明海再生の道」

JRRN 個人会員である「矢部川をつなぐ会」事務局長様より、矢部川をつなぐ会後援行事のご案内を頂きました。

<プログラム>

◆日時: 平成 22 年 10 月 30 日 (土)

13 時 30 分~17 時 30 分

◆場所: 福岡県柳川市立三橋町公民館大ホール (柳川市三橋公民館)

※本行事は終了しました

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2375.html>

会議・イベント案内（2010年11月以降）

（ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■ 全国運河サミット in 利根運河

○日時：2010年11月7日（日） 12:30～16:50
○会場：東京理科大学カナル会館
○主催：全国運河サミット in 利根運河実行委員会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2400.html>

■ 第13回 河川生態学術研究会 研究発表会

○日時：2010年11月10日（水） 10:30～17:30
○会場：発明会館（東京都港区）
○主催：河川生態学術研究会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2396.html>

■ 第5回シンポジウム in すみだ「江戸東京と隅田川文化」を語る

○日時：2010年11月13日（土） 13:30～16:45
○会場：すみだ生涯学習センター
○主催：NPO 法人美し国づくり協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2394.html>

■ 第150回 河川文化を語る会

○日時：2010年11月25日（木） 18:30～20:30
○会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター
○主催：社団法人日本河川協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2379.html>

■ 内湾の機能回復のための海と陸からのアプローチ

○日時：2010年11月25日（木） 13:00～17:40
○会場：GE カレッジホール
○主催：漁業用水問題研究会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2392.html>

■ 流域から都市・地域環境の再生を考える

○日時：2010年12月7日（火） 13:00～17:15
○会場：科学技術館サイエンスホール
○主催：ワークショップ「自然と共生した流域圏・都市の再生」実行委員会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2399.html>

■ 第151回 河川文化を語る会

○日時：2010年12月13日（月） 18:00～20:00
○会場：シェーンバッハ・サボー 3F
○主催：社団法人日本河川協会
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2369.html>

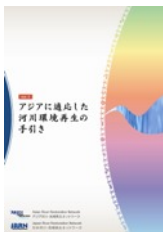
■ 湧水保全フォーラム全国大会 in ひがしくるめ

○日時：2010年12月17日（金） 13:00～17:00
○会場：東京都東久留米市 生涯学習センター
○主催：東久留米市 他
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2390.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1 （2009.3 発刊）

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財) リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ まちづくりへのブレイクスルー—水辺を市民の手に GS 群団連帯編（2010.9 発刊）

- ・編著者：篠原 修、二井 昭佳、内藤 廣
- ・出版社：彰国社
- ・発行年月：2010年9月
- ・価格：¥ 2,310 円
- ・ISBN：978-4395010257



本書では、市民参加や NPO と行政との協働により実現した水辺を軸とした街づくりの事例が豊富に紹介されています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

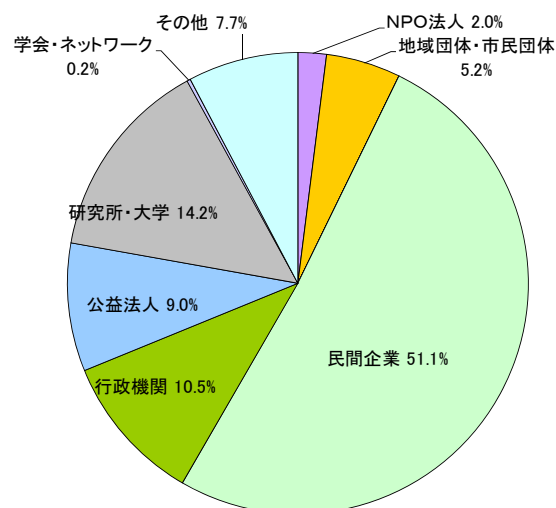
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010 年 10 月 29 日時点の個人会員構成
(個人会員数：454 名、団体会員数：21 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフター中央ビル7階
Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、
(財) リバーフロント整備センターと(株) 建設技術研究所が運営を担っています。